

野菜花き 9月下旬巡回調査結果の概要

【東北信】 巡回日 9月19日、22日、24日、25日

1 トマト

小諸市の巡回ほ場（露地栽培）は、収穫中であつた。病害では、引き続きCMVの感染株がみられた。前回の調査時に輪紋病の発生がみられた複葉はほぼ枯れてしまい、調査は新しく伸長した複葉での調査となり、輪紋病の発生はみられなかった。虫害でも同様に、前回の調査でみられたハダニ類の寄生は、新しく伸長した複葉ではみられなかった。オオタバコガの被害果は引き続きみられ、平年と比べやや多かった。

長野市の巡回ほ場（施設栽培）は、収穫中であつた。病害では、前回の調査に引き続き、すすかび病の発病株率が高かった。虫害では、オンシツコナジラミの寄生がみられたが、前回の調査時よりかなり少なかった。

2 きゅうり

長野市の巡回ほ場（施設栽培）は、収穫中であつた。病害では、うどんこ病の発生が多く、発病株率、発病葉率が平年と比べ高かった。また、べと病の発病株率も平年と比べ高かった。褐斑病の発生もみられたが、少発生であつた。虫害では、オンシツコナジラミの寄生がみられたが、寄生株率は、前回の調査時に比べ低かった。

中野市の巡回ほ場（露地栽培）は、収穫中であつた。病害では、褐斑病の発病株率が平年と比べ高かった。べと病の発病株率は前回の調査時より高かったが、平年並の発生であつた。うどんこ病の発生もみられたが、わずかであつた。虫害では、アザミウマ類の寄生がみられたが、寄生株率は平年と比べ高かった。

3 いちご

南牧村の巡回ほ場は、着果期であつた。アザミウマ類の寄生がみられ、寄生花率は平年と比べやや多かった。病害の発生はみられなかった。

4 キャベツ

小諸市の巡回ほ場は、結球始期であつた。チョウ目害虫の被害がみられたが、被害株率は低かった。病害の発生はみられなかった。

南牧村の巡回ほ場は、結球始期であつた。病虫害の発生はみられなかった。

軽井沢町の巡回ほ場は、結球期であつた。チョウ目害虫の被害株がみられ、被害株率は平年と比べやや高かった。病害の発生はみられなかった。

長野市の巡回ほ場は、結球期であつた。病害では、株腐病、黒腐病の発生がみられたが、少発生であつた。虫害では、チョウ目害虫の被害株がみられ、被害株率は平年と比べ高かった。

5 ブロッコリー

南牧村の巡回ほ場は、出蕾期であつた。病害では、べと病の発生がわずかにみられた。虫害では、チョウ目害虫の被害株がみられ、被害株率は平年と比べ高かった。

御代田町の巡回ほ場は、生育期（10～11葉期）であつた。チョウ目害虫の被害株がみられたが、被害株率は平年と比べ低かった。病害の発生はみられなかった。

6 はくさい

上田市の巡回ほ場は、結球期であつた。病害では、白さび病（図1）、ピシウム腐敗病の発生がわずかにみられた。虫害では、チョウ目害虫の被害がみられ、被害株率は平年と比べ高かった。

小諸市の巡回ほ場は、結球期であつた。チョウ目害虫の被害がみられたが、被害株率は平年並であつた。病害の発生はみられなかった。

小海町の巡回ほ場は、結球始期であつた。チョウ目害虫の被害がみられたが、被害株率は平年並であつた。病害の発生はみられなかった。

南牧村の巡回ほ場は、結球始期であつた。病虫害の発生はみられなかった。



葉表

葉裏

図1 ハクサイ白さび病（上田市）

7 レタス

上田市の巡回ほ場は、収穫期であった。斑点細菌病の発生がみられたが、わずかであった。虫害の発生はみられなかった。

小諸市の巡回ほ場は、結球期であった。すそ枯病、斑点細菌病の発生がみられたが、わずかであった。虫害の発生はみられなかった。

南牧村の巡回ほ場は、結球始期であった。すそ枯病、斑点細菌病の発生がみられ、いずれの病害も、発病株率は平年と比べやや高かった。虫害の発生はみられなかった。

御代田町の巡回ほ場は、結球期であった。斑点細菌病の発生がみられたが、発病株率は平年並であった。虫害の発生はみられなかった。

8 アスパラガス

小諸市の巡回ほ場（露地栽培）は、立茎繁茂期であった。病害では、茎枯病の発生がみられ、発病株率は同時期の平年値と比べかなり高かった。虫害では、アザミウマ類の寄生がみられたが、寄生株率は、前回の調査時に比べかなり低かった。

小布施町の巡回ほ場（雨よけ栽培）は、立茎繁茂期であった。病害では、茎枯病の発生がみられ、発病株率は同時期の平年値と比べ高かった。虫害の発生はみられなかった。

飯山市の巡回ほ場（露地栽培）は、立茎繁茂期であった。病害では、茎枯病の発生がみられ、発病株率は同時期の平年値と比べやや高かった。斑点病の発生もみられたが（図2）、発病株率は平年と比べ低かった。虫害では、アザミウマ類の寄生がみられ、寄生株率は、前回の調査時と比べ低かったが、平年値と比べると高かった。



図2 アスパラガス斑点病
（飯山市）

9 ながいも

長野市のながいもは、生育期であった。アブラムシ類の寄生はみられなかった。

10 きく

佐久穂町の巡回ほ場は、収穫期であった。ハダニ類の寄生が多く、寄生茎率が高かった。病害の発生はみられなかった。

【中南信】 巡回日 9月19日、22日、24日、25日

1 トマト

南箕輪村の巡回ほ場（施設・抑制栽培）は、収穫中であった。茎葉にオンシツコナジラミ成虫（少発生）の寄生がみられた。病害の発生はみられなかった。

2 きゅうり

高森町の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は、収穫中であった。茎葉にワタヘリクロノメイガ（少発生）の寄生がみられた。病害の発生はみられなかった。

松本市の巡回ほ場（施設・抑制栽培）は、収穫中であった。葉および花にアザミウマ類およびワタヘリクロノメイガ（中発生、少発生）の寄生がみられたが、いずれも前回調査時より密度は低下していた。病害の発生はみられなかった。

3 キャベツ

塩尻市の巡回ほ場は、生育期（7～8葉期）であった。病害虫の発生はみられなかった。

朝日村の巡回ほ場は、収穫期であった。結球部および外葉にウワバ類、オオタバコガ（いずれも少発生）の寄生がみられた（図3）。病害では、軟腐病（少発生）による株の枯死がみられた。

茅野市の巡回ほ場は、収穫期であった。虫害はみられなかったが、一部で軟腐病（少発生）による株の枯死がみられた。



図3 キャベツのオオタバコガ
（朝日村）

4 はくさい

木祖村の巡回ほ場は、生育期（9～10葉期）であった。病害虫の発生はみられなかった。

朝日村の巡回ほ場は、収穫期であった。虫害はみられなかったが、軟腐病（少発生）による株の枯死がわずかにみられた。

5 レタス

塩尻市の巡回ほ場は、収穫期であった。虫害はみられなかったが、一部で軟腐病（少発生）による株の枯死がみられた。

朝日村の巡回ほ場は、結球期であった。病虫害の発生はみられなかった。

6 アスパラガス

豊丘村（雨除け栽培）の巡回ほ場は、茎葉繁茂期であった。払落しによりアザミウマ類、アブラムシ類およびハダニ類（少発生、少発生、多発生）の寄生がみられ、特にハダニ類は前回調査時以上に激発状態となっていた。病害では、茎枯病（少発生）の発生がみられた。

飯島町（雨除け栽培）の巡回ほ場は、立茎繁茂期であった。払落しによりアザミウマ類およびハダニ類（いずれも少発生）の寄生がみられた。病害では、茎枯病（中発生）の発生がみられた。

池田町（露地栽培）の巡回ほ場は、茎葉繁茂期であった。払落しによりアザミウマ類、アブラムシ類およびハダニ類（いずれも少発生）の寄生がみられた。病害では、茎枯病（多発生）の発生がみられ、前回よりも密度が増加していた。

7 ねぎ

南箕輪村の巡回ほ場は、本葉9.0葉であった。虫害では、アザミウマ類およびネギハモグリバエ（いずれも多発生）の寄生がみられたほか、ネギコガ（少発生）およびチョウ目害虫（ヨトウ類、少発生）による食害もみられた（図4）。病害では、黒斑病（多発生）の発生がみられ、前回調査時よりも密度が上がっていた。

山形村の巡回ほ場は、本葉9.0葉であった。南箕輪村同様、アザミウマ類、ネギハモグリバエ（いずれも多発生）およびネギコガ（少発生）の寄生がみられた。病害では、黒斑病（多発生）の発生がみられ、前回調査時よりも被害が拡大していた。

8 ながいも

山形村の巡回ほ場は、生育期であった。アブラムシ類の発生はみられなかった。



図4 ねぎのヨトウ類（南箕輪村）